



水田 恒一 議員

文化ホールの椅子

問

座席の幅と前の座席との空間が狭いという声にいかに対応するか。足の不自由な人に大変窮屈である。

県内の市民会館や文化ホールの中で、一番ゆとりたりの座席を望む。

答

長尾総務部長

間もなく取り壊す市民会館は、座席幅が43cm、前後の間隔が83cmと大変狭い印象があると思う。

近隣のホール等の状況を調査した結果、座席幅が50cmから55cm、前後の間隔が93cmから95cmである。



旧市民会館の座席

現在、計画している文化ホールは、基本計画段階で、座席幅が55cm、前後の間隔が1mであり、相当ゆとりとした幅や間隔を確保している。今後、設計過程では、さらに利用される方の意見等も聞き、可能な範囲でよりよいものとなるよう設計に反映させていきたい。また、施設全般についてもバリアフリー新法等に基づき、高齢者や身体障害者の方々にも利用しやすい環境づくりを心がけていく。

ひきこもり対策を問う

問

現在、本市のひきこもり(青年)の実態はどうか。このままで良いのか。どのような対策をとつてきたか。今後どのようにするつもりか。先進地から学ぶべきではないか。

答

武田市民福祉部長

本市のひきこもり対策は、これまででは、保健センターの精神保健相談の中で対応しており、当事者の状況により、関係機関と連携を図りながら支援に努めている。国が平成21年度にひきこもり対策推進事業を創設し、県でも心と体の健康センターに相談室を開設し、対策の充実が図られてきている。

全戸訪問という方法でのアプローチは、当事者の生活の中に入っていくことになるので慎重であるべきだと考えている。

今後の対策としては、十分な調査研究が必要であるが、当事者あるいはその家族が動き出そうとしたときに、その思いを受けとめられる相談体制を整備し、関係各課や医療機関等と連携ネットワークによる支援の方法等についても研究していきたい。

「あいサポート運動」の推進を求める

問

障害を知り、共に生きる地域社会を目指して、誰もが地域の中で、いきいきと暮らしていくために、鳥取県発祥の「あいサポート運動」を本市でも取り組んでどうか。

答

武田市民福祉部長

本市では、9月25日に、障害者の笑顔あふれる伊予市の地域づくりフォーラムが開催され、講演で、パネリストである障害の

ある方から地域で生活する自分たちのことをもつと地域の方に知ってほしい、困っているときは声をかけてほしいという意見が出された。早速、これら理解促進を図るため、ふれあいの集いで障害をテーマにした3択クイズを取り入れ、障害者の日常生活を紹介することを提案したところ、小学生から大人まで参加者全員が楽しく障害について学ぶことができたと評価している。

今後とも人権教育関係部署や市内各種団体と連携し、機会を捉えながら地域全体で障害者への配慮がなされるような啓発運動の実施に努めたい。

その他の質問事項

- 危機管理体制の確立
- 人事採用に関して
- 女子生徒の制服
- 下灘小学校用地買収費 全額未執行